

杉戸町立杉戸南中学校 令和7年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本の定着	①家庭学習の年間を通した取り組み ②ICTを活用した家庭学習の推進	①学力向上シートの活用と来年度以降の家庭学習実施方法の検討 ②長期休業期間及び課業日における課題の配信	B	①学力向上シートを多くの生徒が活用することができた。 ②長期休業中の多くの課題はタブレットで配信及び回収を行っている。 ③生徒回答によるタブレットアンケートでは「ほぼ毎日使っている」「週3日以上使っている」と回答した生徒が82.5% (杉戸町平均79.9%) となっている。	①家庭学習は提出するために行っている生徒も多く見られ、質の面でさらに検討していく必要がある。 ②課業日に継続した課題の配信はおこなえていない。ミライシードで各自が学習するよう呼びかけている。 ③全教員が授業改革を進めることができた。来年度の課題としては、他教科の教員との授業参観による情報交換、統合して新たな教職員集団での確実な実践である。	A	・生徒のタブレット活用が促進されていることはとてもよい。 ・杉戸町教育委員会と共に、様々な学びの形を授業で実践していることは研修等の成果である。今後も継続した実践研修が望まれる。
	令和の日本型教育の構築	①タブレットを活用した授業づくり ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進める。	①各教科にてタブレットを活用する単元(授業)を意図的に設定していく。道徳については全教員がタブレットを活用する。 ②各教科で2学期に新しい学びの形を実践し、校内公開授業をおこなう。	B	①研究授業を全員で参観し、協議を重ねた。年間を通して、または特定の単元において全ての教員が個別最適、自由進度、協働的な学び等、新たな学びの形を取り入れることができた。			
豊かな心	学校生活の充実	①体験活動の実施 ②生徒の居場所づくり	①福祉体験、職場体験を杉戸町と連携・充実させ、豊かな学びへとつなげる。 ②Aルームを活用するとともに、ケース会議を実施することで新規の不登校生徒を減らす。	B	①学校ファームは支援級の生徒で畑での作業を担当し、ダイコンの収穫を行うことができた。 ②不登校生徒は1年生0名、2年生3名、3年生2名となった。相談室やブースを活用し生徒(家庭)の様々なニーズに対応すると共に、教職員が生徒の悩みに寄り添った結果であり、継続の生徒も相談室への登校や外部機関への登校など個々で前進が見られた。 ③地域交流について、どのような方策があるのか検討する段階に留まった。次年度の具体的な計画及び実行へとつなげていきたい。	①多くの生徒が経験できる場面を設定することができなかった。次年度へ向け、春先から準備を進めていきたい。 ②Aルーム(少人数支援室)を新設することで相談室との使い分け、生徒が登校し自己実現へとつなげる機会を多く設定していく。 ③近隣の学校(小学校及び高等学校、幼稚園)との交流について、相手校担当者等との連携を密に行い、実施へとつなげていきたい。	A	・生徒があいさつをよくしており、その大切さ等を日頃から指導していることが伝わってくる。 ・学校ファームについては、校外ボランティアなどを検討し、積極的な参加を計画すべきである。
	交流活動の充実	①学年間交流 ②地域との交流	①学校行事や学年行事、テスト勉強等で学年間での交流の機会を作っていく。(学期1回以上) ②地域ボランティア活動、学区の小中学校のPTA活動の依頼を受け、積極的にに関わり、杉戸南中学校を地域に発信していく。	B				
健やかな体	健康教育の充実	①学校保健委員会の開催 ②歯磨き習慣の確立 ③保健だよりの発行	①年2回の実施。保護者にも協力員として参加を促す。 ②保健委員を中心に給食後の歯磨き実施9割以上を目指す。 ③保健だよりの電子化によるメール配信。	B	①学校保健委員会を2回実施し、開催方法についても講師及び参加者の負担を考慮し、1回目は紙面開催とした。 ②給食後に歯磨きの歌を流して保健委員を中心に歯磨きを呼び掛けた。う歯治療率は76.0%であった。 ③「体育等により体力を向上させている」と回答した生徒は89.6%となった。昼休みの熱中症指数が高い日には、体育館を学年別に開放した。日頃教室で過ごす生徒も体育館開放の日には身体を動かす姿が見られた。 ④予定表は毎月管理職に提出し、月末に活動日数をチェックした。全ての部活でガイドラインに沿った活動を年間を通して行うことができた。	①学校保健委員会については、内容の充実を目指し、次年度も計画・実施をしていく。 ②未治療者は28名であり、養護教諭が掲示物を作成し、担任を通じて家庭に呼びかけをおこなってきた。来年度も引き続き、未治療者を減らすよう働きかけていく。 ③持久走やダンスなど単元によって見学者が多いのが課題である。個の課題を設定しているが、苦手意識や辛いことを避ける傾向が拭えず、来年度も個別の課題を設定して取り組ませたい。 ④活動時間が短いため、放課後の活動場所への移動や活動内容の見直し、練習の質を高める取組など教職員間で生徒に呼び掛けていく。	B	・体育祭などの行事において、生徒のはつらつとした姿が印象的である。 ・う歯治療率については、生徒の心身の健康を保つためにも、引き続き家庭と連携をするとともに、小学校との連携も検討すべきである。
	体力の向上	①基礎体力の向上 ②部活動ガイドラインの完全実施	①体育委員会による運動習慣の呼びかけ。体育の授業におけるスモールステップの課題提示による「体育が好き」な生徒9割以上。 ②部活動ガイドラインの完全順守。	B				
学校独自	体験活動の充実	①1年生：スキー教室 ②2年生：校外学習(東京方面) ③3年生：修学旅行	①今年度は新潟県にて実施。 ②文化探求活動のため、東京方面で班活動を実施。 ③文化探求活動のため、奈良・京都方面で班活動を実施。	B	①修学旅行及びびスキー教室、東京別班学習については、実行委員会や係会議などを実施し、体験活動の内容の充実及び、自主的な取組ができるようにした。 ②生徒の自主的な学びが推進できるよう、教科備品の点検を実施したり、不足分については、PTAと連携し、備品の充実を図った。 ③校内研修及び各種委員会にて生徒の実態に関する情報共有を行うとともに、生徒会と連携し、より生徒主体の学校づくりへとつながる取組を行ってきた。	①新校が開校し、2・3年生については、旧広島中学校及び旧東中学校の生徒がともに学び、互いに高め合う姿が見られた。今後も注深く見守っていく。 ②今後も計画的な購入及び管理を行っていく。 ③「新しい学校づくり」は道半ばであるため、杉戸南中学校の各種骨格作りを生徒と共に実施していく姿勢を教職員全員が持ち、教育活動に取り組んでいく。	A	・各学年の校外行事等は、統合後も引き続き、生徒を中心に据えた、充実した活動ができています。 ・教育内容や教育方法の変化に乗り遅れないよう、教職員の弛まぬ努力を今後も期待する。 ・杉戸南中学校の立地を生かし、近隣にある幼稚園や小学校、さらには高等学校などとの交流の充実を図ることを期待する。
	「新しい学校」づくり	①社会の状況に合わせた学校づくり	①生徒主体の学びの環境づくり ②寛容性を認める学校づくり(学校のきまり等)	B				